

【西郷村】

西郷村立小中学校に係る校務 DX 計画

1. 西郷村における現状

本村では、教職員の業務効率向上・業務削減による教育の質の向上を目指して、校務 DX に向けて取り組んでいる。令和 5 年 4 月 1 日には、統合型校務支援システムの導入を行った。システムの導入により、情報を一元管理及び共有しやすくなり、教職員の働き方改革のより一層の促進が期待される。

文部科学省の「「GIGA スクール構想の下での校務 DX 化チェックリスト」に基づく自己点検」及び福島県教育委員会の「教職員働き方アクションプラン」等を踏まえ、継続して校務 DX に向けて取り組みを行う。

2. 校務 DX 推進にあたっての課題点

(1) 不完全なペーパーレス化

村内ほとんどの小中学校において、保護者や地域への資料配布が依然として紙媒体で行われている。書類の印刷や印刷物の配布など、教職員の負担となっている。

(2) 欠席時の電話連絡

村内ほとんどの小中学校において、児童生徒の欠席連絡が電話によって行われている。電話連絡は、保護者や教職員を時間的に拘束してしまう。

(3) プライベートクラウド上で運用されている統合型校務支援システム

プライベートクラウド上で運用されている統合型校務支援システムは、教職員が校務用端末を使用できるロケーションを限定してしまう。これらは教職員の業務効率を妨げる要因となっている。

(4) FAX の日常的な利用

学校と外部とのやり取りにおいて、依然として FAX が使用されている。FAX の送受信は教職員の業務効率を低下させる要因となっている。

3. 課題の解決に向けて

(1) 保護者連絡ツールの導入及び活用促進

令和 7 年度より保護者連絡用ツールの導入を行う。保護者連絡用ツールを導入すること

で、児童生徒の欠席確認の電話対応業務の削減や、資料配布のペーパーレス化を行い、保護者や教職員の負担軽減を図る。

（２）次世代型校務支援システムの導入検討

パブリッククラウド上で運用できる校務支援システムの導入を検討。ロケーションフリーで校務用端末を使用することが出来るようになり、教職員のニーズに合わせた多様な働き方が可能になる。

（３）FAX の原則使用禁止

教職員の業務効率低下を解消するために、学校と教育委員会でのやり取りにおける FAX の使用を原則禁止とし、外部とのやり取りも電子メールの活用に努める。